

鉄骨工事 Q&A	高力ボルト接合	摩擦面の黒さび	制定	2014年6月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. 重ね合わせたスプライスプレートを外したら黒いさびが発生していたが、摩擦面として問題ないか？

A.

JASS6によれば、摩擦接合に必要なすべり係数0.45を確保するための摩擦面処理として、自然発せい(錆)、薬品処理による発せい(錆)もしくはブラスト処理が認められていますが、これらの方法により、一度、すべり係数確保のための粗さが確保された鋼板に対して、表面を空気にふれないように密閉した状態でしばらく放置すると、摩擦面が黒変することがあります。

しかしながら、一般に、黒変することによって一度形成された面の粗さが失われることはないので、摩擦面としての性能に問題は生じません。このことは、鉄骨工事技術指針・工場製作編において、「一度赤さびが発生したスプライスプレートを部材の接合面に重ねておくとしばらくして面が黒変することがあるが、この場合、通常は所定のすべり係数は得られると考えてよい。」との記述でも示されています。



スプライスプレートの黒さび